

令和3年度 学校教育自己診断（学校評価アンケート）の結果と考察

1. アンケート回答数（回答率）

令和3年10月21日（木）配付

10月28日（木）回収〆切

	在籍	実施日	生徒			保護者			教職員
			1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	
令和3年度	521人 内訳↓ 1年147 2年181 3年193	10/21	521人(98%)			440人(84%)			44/44人 (100%)
			139 (95%) 長欠9	197 (100%) 長欠0	214 (99%) 長欠1	116 (83%)	147 (81%)	177 (92%)	
令和2年度	622人 内訳↓ 1年207 2年200 3年215	10/13 10/16	615人(99%)			507人(82%)			46/46人 (100%)
			204 (99%) 長欠3	197 (99%) 長欠3	214 (99%) 長欠1	173 (84%)	163 (82%)	170 (79%)	
令和元年度	662人 内訳↓ 1年222 2年227 3年213	10/10 10/18	654人(99%)			573人(87%)			51/51人 (100%)
			215 (97%) 長欠7	227 (100%) 長欠0	212 (99%) 長欠1	201 (91%)	183 (81%)	189 (89%)	
平成30年度	668人 内訳↓ 1年238 2年220 3年210	10/19	661人(99%)			600人(90%)			50/50人 (100%)
			234 (98%) 長欠4	217 (99%) 長欠3	210 (100%) 長欠0	218 (92%)	208 (95%)	174 (83%)	
平成29年度	696人 内訳↓ 1年237 2年221 3年238	10/20	687人(99%)			546人(78%)			54/54人 (100%)
			232 (98%) 長欠5	218 (99%) 長欠3	237 (99%) 長欠1	222 (96%)	150 (69%)	174 (74%)	

2. 考察

集計結果の処理は、肯定的回答（◎○）と否定的回答（△×）に分け百分率で表した。

集計表は過去の肯定的回答との比較を百分率（以下『ポイント』と記述）の増減で表した。

なお、マイナスは数値の前に△を付記する。

また、保護者のアンケートでは「わからない」という回答を設け、その数を引いたものを母数とし

肯定的回答と否定的回答の百分率を求めた。

（補足）質問項目のうち、昨年度の「体育大会等、学校行事は生徒が主体的に行っている」の項目について、今年度は行事変更に伴い「文化祭等、学校行事に主体的に関わりたいと思っている」という質問に変更をした。

年次別（過去3年間のデータと比較）

生徒

- ・今年度は多くの項目でポイントが上昇している。その中でも特に「授業はわかりやすい」、「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」に関する項目で上昇が見られた。これについては観点別評価の試行に伴い、各教員が例年より授業を工夫して行う機会が増えたことが関係しているのではないかと考える。その他の授業に関する項目のポイント上昇も見られる。
- ・昨年に引き続き、「学校に行くのは楽しい」という項目で低下が見られる。それに伴って「今のクラスに友達がいる」の項目も低下している。ポイント自体の減少は見られるが、いずれの項目も肯定的な回答が大部分を占めている。

保護者

- ・ポイントが増加した項目はすべて微増であり、ほとんどの項目でポイントの低下が見られる。その中でも「国際理解教育や語学研修」に関する項目のポイントの低下が一番大きい。語学研修が今年度も新型コロナウイルスにより中止となったことや、国際理解学習の内容が保護者に伝わりにくいたことが原因であると考えられる。
- ・昨年に引き続き、生活指導、進路指導、学校行事などの項目での低下が見られる。

教職員

- ・「主体的・対話的で深い学びにつながるような学習指導を取り入れている」と「評価の在り方について、教科や学年等で話し合う機会がある」の2項目に関しては、今年度の観点別評価の試行の実施に伴い、ポイントの上昇が見られた。
- ・「学校運営に教職員の意見が反映されている」という項目で大幅な低下が見られる。半数以上の教員が反映されていないと感じており、会議の在り方などを今後検討していく必要がある。
- ・「清掃がいきとどいている」という項目でポイントの低下が見られた。いきとどいていないと感じている教職員が過半数を超えており、改善が必要である。教室等や廊下を毎日清掃するという認識を持ち、この先も長く校舎を使用できるように個々の意識の向上を図りたい。
- ・「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」という項目で今年度改善傾向が見られた。コロナ禍で行事が中止・延期になる中で、教員が行事を実現させていこうと工夫しながら準備を進めていたのでポイントの上昇が見られた。

学年別（全体値との比較）

1年生（生徒）

- ・多くの項目で平均値程度となっている。
- ・「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」が平均値より9.3ポイント高い。中学校と比較して1学級の人数が少ないこと、少人数展開の授業が行われていることが要因と考えられる。
- ・「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分の為になっている」についての項目が平均値より高く学校の指導の方向性について理解、受け入れていると考えられる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」のポイントは8.0ポイント低い。1年生に授業の選択等はないためポイントが低いことは妥当である。
- ・「国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを行っている」が5.0ポイント高い。1年生では9月に国際理解教育の一環として留学生が作成してくれた映像を鑑賞する機会があったことが値に結び付いたと考えられる。
- ・「実習実験による体験授業が行われている」が8.0ポイント以上低い。選択授業等の中に設定してある体験型授業が少ないことも考えられるが、中学校の時と比較して体験型授業が少ないことも要因の一つと考えられる。

1年生（保護者）

- ・多くの項目で平均値より低い。
- ・「学校に行くのを楽しんでいる」と言っているが全体値よりポイントがやや低い。また、「学校で学ぶことが大切だと思っている」も低くなっており学校へ気持ちが向かない様子を感じを保護者も感じていると考えられる。
- ・「授業がわかりやすいと言っている」は平均値より高くなっておりそれぞれの授業での工夫が評価に反映されていると考えられる。
- ・「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」は平均値よりポイントが低い。中学校のときよりも学校から家庭へ連絡することも減り、教職員との距離があるように感じているのではないかと考えられる。
- ・「部活動は盛んである」が全体値に対してポイントが低い。新型コロナウイルス感染拡大の影響で体験入部の予定が遅れたことなどが影響し、クラブに入部し損なった生徒が多いのではないかと考えられる。

2年生（生徒）

- ・全体的に平均値前後であり、大きな差異はない。
- ・「学校で勉強するのは、大切なことだと思う」「授業でわからないことについて、先生に質問できている」が全体値よりポイントが高い。2年生になって勉強の意欲が高まってきた表れと考えたい。
- ・「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」が低くなっている。学力への不安から少人数による授業を切望しているのかもしれない。

2年生（保護者）

- ・全体的に平均値前後であり、大きな差異はない。
- ・「クラスに友達がいると言っている」が高いポイントである。これについては生徒のアンケートの結果に比例しているので生徒も家庭で学校のことを保護者に話せていると思われる。
- ・「学校のホームページやまちこみメールを利用している」のポイントが高くなっている。ホームページやメールでの連絡の確認が浸透してきたと考えられる。

3年生（生徒）

- ・「学校に行くのは楽しい」、「今のクラスに友達がいる」が平均値よりポイントがやや低い。1年生の時から見ても1番低いポイント数となっているのは気になるところである。
- ・「授業でわからないところについて先生に質問できている」が平均値より高くなっている。3年生となり進路実現や卒業に向けて、教員への質問や話を聞くことも増え、授業でわからないところについても質問できる生徒が増えたと考えられる。
- ・「選択科目や体育専門コースなどの興味関心に応じた授業がある」「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」「国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを行っている」のポイントが平均値より高い。自分の希望にあった授業選択や展開授業があり、様々な取り組みにも進路実現等の兼ね合いから参加している生徒がいると考えられる。

3年生（保護者）

- ・全体的に平均値に比べポイントが高い。「懇談などによって学校での子どもの様子を知る機会がある」の項目も全体より高いことから、学校の活動に理解を得られていると考えられる。
- ・「学校に行くのを楽しんでいる」のポイントが全体より高い一方で、「クラスに友達がいる」等のポイントが低い。
- ・「進路や職業について適切に指導している」や「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」のポイントは全体より高い。3年生になって保護者との信頼関係も築けてきた結果が表れていると考えられる。

- ・「授業参観・学校行事・PTA 活動に積極的に参加している」のポイントが高い。授業参観や行事の参観が再開されてきたことが要因と考えられる。

1 年生の年度別変化（各年度との比較）

1 年生（生徒）

- ・昨年度の学校評価アンケートでポイント低下した項目の多くが、ポイント上昇に変わっており、一昨年度と同程度の値となった。
- ・特に大きく変化した項目は「国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを積極的に行っている」の項目で、今年度も語学研修は中止であったが、理解学習については昨年度よりも早い時期にビデオメッセージによる留学生との交流の機会を取ることができたことが大きな要因と考えられる。
- ・次にポイント上昇の大きな項目は「学校生活について先生の指導を理解できる」で、一昨年度よりも高く、過去5年で最も高い値である。
- ・昨年度大きくポイントが低下した「学校行事に主体的に関わりたいと思っている」の項目も5ポイント上昇に変化している。残念ながら今年度の体育大会は中止であったが、昨年度実施できなかった文化祭が実施できることを生徒も楽しみにしている様子である。
- ・逆にポイント低下した項目の中では、「部活動は盛んである」が2年連続で低下しており、昨年度よりも低下が大きい。今年度も新型コロナウイルスの影響で4月当初に部活動ができず、各部ともに新入部員の加入が困難であったことが大きな要因と考えられる。

1 年生（保護者）

- ・昨年度もポイント低下した項目が多かったが、昨年度以上にほとんどすべての項目でポイントが低下している。新型コロナウイルスによる影響もあると思われるが、それ以外の要因についてもしっかりと検討する必要がある。
- ・特に「教職員は、生徒の能力や努力を適切に評価している」の項目のポイント低下が大きい。次年度の1年生からは観点別学習状況の評価が始まるので、生徒や保護者に評価基準などを説明できるよう、しっかりと準備しておく必要がある。
- ・「学校の施設、設備についてはほぼ満足できる」の項目もポイント低下が大きく、肯定的な回答と否定的な回答が50%ずつとなっている。
- ・次いでポイント低下が大きかった項目は「国際理解教育や語学研修などさまざまな取り組みを積極的に行っている」である。生徒のアンケート結果ではポイント上昇しているが、保護者には学校での取り組みが十分に伝わっておらず、語学研修の中止が大きく影響していると考えられる。

2 年生の年度別変化（各年度との比較）

2 年生（生徒）

- ・今年度も、新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度並みの数値が多く、大きな変化は見られなかった。しかし、「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」の項目は昨年度と比較して13.9ポイント低下した。少人数授業を振り返り、改善することも必要である。
- ・平成30年度以降年々低下の傾向にあった「部活動は盛んである」の項目は前年から3.5ポイント上昇した。新型コロナウイルスの影響で部活動ができない期間もあったが、生徒自身がコロナ禍で部活動の重要性を改めて考え、行動に移している結果であると考えられる。

2 年生（保護者）

- ・生徒同様、今年度も新型コロナウイルスの影響下での学校運営で、昨年度並みの数値が多く、大きな変化は見られなかった。しかし、「PTA 活動は盛んである」の項目は昨年度から5.6ポイント低下し、肯定的な意見は50%と低い評価になった。コロナ禍もあり、文化祭などで活動が制限されたことも原因と考えられる。

- ・それに対し、「子どもは、「クラスに友達がいる」と言っている」の項目は、昨年度から 4.1 ポイント上昇し、肯定的な意見は 90% を超え、非常に高い評価を得た。引き続きクラス作りや行事を通じて生徒同士のつながりがある学校を目指していくことが重要である。

3 年生の年度別変化（各年度との比較）

3 年生（生徒）

- ・総じてポイントが横ばいか低下している項目が多い。「わたしたちの悩み（いじめなど）や相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目では、5.5 ポイント低下し 74.9 ポイントとなっている。生徒が寄り添いを実感できる指導を今後意識して取り組んでいく必要がある。
- ・一方で、「授業でわからないことについて、先生に質問できている」の項目は 7.4 ポイント増え、大幅に上昇している。生徒がコロナ禍を経験し、学校で学ぶことの大切さ・重要性を再認識したことで、学校で学ぶことを大切にしていこうとする姿勢がこの数値に表れていると考えられる。

3 年生（保護者）

- ・保護者の評価は全体的に横ばい傾向だった。「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている。」の項目は 5.3 ポイント低下している。この項目は直近 5 年間で見ても年々低下傾向にある。コロナ禍で様々な部分において制約がかかる状況で、生徒の自主性に対してもある程度の制約がかかってしまう点は致し方ない部分である。コロナ禍が続く状況下では保護者の理解をさらに求めると同時に、生徒の自主性をどこまで認めるかについて新型コロナウイルスの状況と照らし合わせながら慎重に進めていくことが肝要である。
- ・「学校のホームページやまちこみメールを利用している」の項目は前年度から 4.5 ポイント上昇の 78.1 ポイントであったが、直近 5 年間で見るとこの項目は大幅に上昇している。連絡を受けとる手段としてホームページやまちこみメールが定着し、コロナ禍における連絡手段として利用率が高くなっていることを示していると考えられる。

現 3 年生（44 期生）の経年変化（過去 2 年間のデータと比較）

3 年生（生徒）

- ・昨年度に比べ、多くの項目で上昇がみられた。特に「授業でわからないことについて先生に質問できる」の項目では 1 年次に比べ 4.6 ポイントの上昇、2 年次に比べ 10.3 ポイントの上昇と大きく上昇している。生徒と教員の信頼関係が深まってきていることが伺える。
- ・部活動や行事に関する項目では、昨年度よりもポイントは上昇しているが、新型コロナウイルスの影響がなかった一昨年よりも大きく低下している。

3 年生（保護者）

- ・多くの項目で 2 年次と比べてのポイントの低下がみられる。生徒のほうの結果では多くの項目でポイントが上昇していることから、学校での様子が保護者にあまり伝わっていないことも考えられる。また、「学校行事は、子供たちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」の項目で 1 年次に比べ 11.7 ポイントの低下、2 年次に比べ 3.6 ポイントの低下がみられる。今年度、新型コロナウイルスの感染予防のため、体育大会の中止や文化祭の準備期間や規模の縮小等を行った影響が大きいと思われる。

現 2 年生（45 期生）の経年変化（過去 1 年間のデータと比較）

2 年生（生徒）

- ・昨年度に比べ、半数以上の項目で上昇がみられた一方で、ポイントが大幅に低下した項目も目立った。特に「少人数によるきめ細やかな指導が行われている。」「学校は国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを積極的に行っている」の 2 項目では 1 年次に比べ 20 ポイント以上低下した。少人数の授業の科目が著しく

減ったこと、また新型コロナウイルスの影響で語学研修等が中止となったことが影響していると思われる。学校で勉強すること、集会が行われることなど、学校教育の在り方を扱っている項目は概ねポイントの上昇が見られた。学校に対しての信頼は、1年半の学校生活を通じて深まっていることが伺える。

2年生（保護者）

- ・昨年度に比べ「学校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている。」「学校の施設、設備についてはほぼ満足できる」の2項目では5ポイント以上の上昇があった。生徒と同様、1年半での学校への理解が徐々に深まってきたのではと考えられる。
- ・一方、「学校は国際理解教育や語学研修など様々な取り組みを積極的に行っている。」「部活動は盛んである。」の2項目では5ポイント以上の低下があった。部活動に関しては、加入率だけでなく、学校行事の中止や縮小によりクラブ員の活躍の場が減ったことも関わっていると見られる。

最後に

今年度は昨年度と比較して、1年生の保護者において数値が低下している。1年生の保護者が学校に対して求めるものがこれまでと変わってきたのではないかと思われる。また、新型コロナウイルスの影響により、今年度も行事等の変更が相次いだ。こういったことも全体のポイント低下の一因であると考えられる。様々な変更や対応が求められる厳しい状況が続いているが、今後も生徒、保護者に寄り添い、教員が一丸となって取り組む必要がある。

今回のアンケート結果をもとに、生徒や保護者、教職員が安心して学校生活を送れるよう、また魅力的な学校となるように、検討を重ね、今後の教育活動につなげていきたい。